（記号 102 ）	（科目名 世界史 ）
〔誤〕 →	〔正〕
2頁 9行目 5. W・Z	2頁 9行目 5. W・X

世　界　史

〔Ⅰ〕 次の文章を読み，設問１～11に答えなさい。 (50点)

「都市」という言葉には近代的なイメージがあるが，(1)都市それ自体は既に古代において世界各地に成立し，文明の発展と密接に関わってきた。そこでの様々な活動が，人類の歴史に大きな影響を与えたのである。しかし，都市とは何か，という問いに答えるのは思いのほか難しい。時代や地域によってその特徴も異なるであろう。そこで，都市の起源の一つである古代の西アジアやヨーロッパに焦点を当て，その原初的な形態から，都市の一側面を考えてみたい。

(2)メソポタミア地方南部では，農耕・牧畜の定着にともなって，前４千年紀後半から都市が現れる。都市を中心に都市国家が形成されると，それを基盤に都市文明が発展していった。メソポタミアにおいて都市文明はシュメール人によって始まったとされる。彼らは，メソポタミア南部に（　**a**　）などの都市を建設した。その後には，他の多くの民族も都市国家を形成し，互いに交流・衝突しながら歴史が展開した。その結果，前１千年紀には（　**b**　）など，メソポタミアのみならずエジプトを含むオリエント全体を支配下に収める帝国が現れるが，その支配下でも都市は存続し，国家の支配や人々の生活の基盤として重要であり続けた。

ヨーロッパでは，前２千年紀初め頃エーゲ海周辺に，メソポタミアやエジプトの影響を受けて都市文明が登場した。それらは前12世紀にいったん崩壊し，多くの都市も放棄されたが，前８世紀に新たな都市文明がみられるようになる。その文明を担ったのがギリシア人であった。ギリシア人は，ギリシア本土のみならず，地中海各地に（　**c**　）などの植民市と呼ばれる都市を建設した。ポリスと呼ばれた都市およびそれを中心とした都市国家は，前４世紀までに800を超えていたと言われ，前２世紀にローマによって支配されるまで，それらを統一する国家は現れなかった。

そのローマもまた，都市から始まった国家である。イタリア半島には都市ローマ（以下，ローマ市と表記）の建設以前に，エトルリア人やギリシア人の都市国

家もあったが，ローマはそれらを前３世紀までに勢力下に組み込んだ。その後，地中海に進出したローマは，前２世紀にはギリシアなど東方にも拡大し，前１世紀までには（　d　）などの地域を属州として，大帝国を築き上げた。その大帝国の支配を支えたのが，都市であった。首都たるローマ市は，最盛期には100万の人口を抱えたとも言われる大都市であった。また，辺境の属州では，ローマ人が建設した都市からローマ風の文化が広まった。こうしたローマ文化を受け入れた人々が実質的に各都市を統治したことで，都市は帝国統治の下部組織として機能した。

メソポタミアとギリシア・ローマの両文明は，言語や文字のみならず宗教や世界観などそれぞれ異なる特徴を有していたが，それらの基盤となった都市には共通する点も多い。例えば，両文明とも都市には必ず公的な目的の建築物が造られた。その最たるものが，神殿である。シュメール人の諸都市ではまず神殿が築かれ，それを中心に都市域が発展したとされている。(ア)これらの神殿に付随して聖塔が建てられることもあり，巨大なその塔は都市のランドマークとなった。バビロンのそれは，旧約聖書に登場する「バベルの塔」のモデルともなったと言われている。ギリシア・ローマでも，中心的な都市域の丘の上に神殿が置かれた。アテネでは，アクロポリスと呼ばれた丘の上に元々あった神殿がペルシア戦争で破壊された後，(イ)同じ場所に女神アテナの神殿が再建された。その神殿は現在復元され，ギリシアの観光名所の一つとなっている。

また，都市域には意図的に整備された広場があることも共通点である。ギリシアではアゴラ，ローマでは(ウ)フォルムと呼ばれる広場が，都市域の中心に置かれた。そこは，(3)市場が開かれる商業地であると同時に，集会が開かれる政治的な場でもあって，市民生活の中心的な空間であった。アテネでは，神殿が置かれたアクロポリスの北西麓にアゴラが広がっている。その周縁には(4)長い年月の間に様々な建物や施設が建てられ，現在でもその一部が残されている。特に目を引くのは，広場の東側にある「アッタロスのストア」と呼ばれる列柱館で，２階建ての建物が完全に復元されている。これは，小アジアにあったペルガモン王国の王アッタロス２世が寄進したもので，当時は店舗が連なるショッピングモールのような場所であった。広場の西側には，地縁的な部族制への改革によって500人評議会が創

設されると，その開催場所として「会議場」が新設された。商業施設や議場の他に，市民の生活に欠かせない人工的な水場もあった。現在も貯水槽が確認できる「南東の泉場」は，アテネを支配していた僭主の一族によって設置されたものであり，水を汲みに来る人々の社交の場でもあった。アゴラの中央部での建築物の建設は禁じられていたが，のちに別の場所に新しいアゴラが建設されると，本来のアゴラの中央部にも建物がみられるようになる。その代表例が，初代ローマ皇帝の右腕として活躍した将軍が寄贈した「アグリッパの音楽堂」である。

ローマ人が各地に建てた都市においても，目抜き通りが交差する都市の中心に広場と神殿が置かれることが多かったが，帝政期に入って都市の自治機能が低下すると，広場の政治的意義も薄れていった。その代わり，(5)円形闘技場や公共浴場といった娯楽の場が市民の集まる社交の場となっていった。これらの建築物は，ローマ風の都市の特徴といえる。

他方メソポタミアでは，最古の都市の一つとして知られる北シリアのハブバ＝カビラにもみられるように，都市の城門近くに広場がおかれ，外部の商人たちと取引が行われる市場が立っていたとされる。しかし，王が支配したメソポタミアの諸都市では，広場がギリシア・ローマのような政治的な機能をもつことはなかった。その代わり，王の居館であり行政施設でもあった(6)宮殿が，メソポタミアの諸都市の特徴といえる。宮殿は，オリエントの影響を強く受けたクレタ島のクノッソスや，ギリシア本土の（　e　）などの都市にもみられるが，前８世紀以降のギリシア・ローマではほとんどみられない。

以上のような(エ)様々な建築物や施設を含む都市域が城壁で囲まれていることも，メソポタミアとギリシア・ローマの共通点である。多くの民族が入り乱れ，王朝が次々に交代したメソポタミアでも，多くのポリスの間で頻繁に衝突が生じていたギリシアにおいても，城壁は都市の安全にとって必要不可欠な設備だった。ローマ市でも王政期に築かれたとされる城壁があったが，発展に伴ってその外にも都市域が広がっていった。その新しい都市域を囲む形で，ある皇帝が新たな城壁を築いた。その城壁は彼の名をとって(7)「アウレリアヌスの城壁」と呼ばれ，現在でもその一部を確認できる。

城壁や神殿，広場の存在は，都市が当時の人々を惹きつける特徴を備えていた

ことを示す。しかし，多くの人々が各地から集まり，共に暮らすことで，都市には様々な問題が生じることになった。その一つが，(8)衛生問題である。特に排水の処理は，人々が集まって暮らす都市では必要不可欠だった。ハブバ＝カビラでも，アテネでも，そしてローマ市でも，排水のための設備が整えられていた。しかし，膨大な人口を抱えるようになったローマ市では，大量の生活用水が排水され，周囲の衛生環境を悪化させた。また，ローマの諸都市では，近くの沼沢地を発生源とする(9)伝染病がたびたび流行し，多くの人々の命を奪った。その他，過剰な人口密度と騒音，建築物の過密さとそれに伴う火災の危険性など，都市には特有の様々な問題があった。

人々が集まる場所であることが都市の特徴だとすれば，このような欠点を孕むことは都市の宿命であった。しかし，それ以前の小規模な集落では考えられなかったこうした問題に対処せざるを得なかったことで，都市ではさまざまな「革新（イノベーション）」が生み出された。決して快適とは言えない都市だとしても，「革新」に基づく最先端の文化や技術が生まれる場所は，人々を惹きつけ，あるいは無視できない存在となったのである。これが，単なる人口密集地ではない，都市のもう一つの特徴と言えるだろう。

設問１　文中の（　**a**　）～（　**e**　）に入る語句として**最もふさわしくないもの**を，次の選択肢１～４のうちから一つ選び，解答欄Ｉ－Ａに記入しなさい。

(a)　１．ウル　　２．ウルク　　３．ニネヴェ　　４．ラガシュ

(b)　１．アケメネス朝　　２．アッシリア
　　３．カッシート　　４．マケドニア

(c)　１．カルタゴ　　２．シラクサ
　　３．ネアポリス　　４．マッサリア（マッシリア）

(d)　１．エジプト　　２．ガリア　　３．シチリア　　４．ダキア

(e)　１．ティリンス　　２．トロイア（トロヤ）
　　３．ピュロス　　４．ミケーネ

設問 2　下線部(1)に関連して，世界各地の古代文明の特徴についての記述あ～うと，その文明を代表する遺跡Ｘ～Ｚとの組合せとして正しいものを，次の選択肢１～６から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

世界各地の古代文明の特徴

あ　大河の下流域に形成され，水田稲作がさかんであった。

い　大河の定期的な氾濫によって豊かな農業がおこなわれ，神（神の子）とされる王が強大な権力を持った。

う　計画的に建設された都市には沐浴場が備わり，動物と未解読の文字が刻まれた印章が多くみられる。

文明を代表する遺跡

Ｘ　アマルナ（テル＝エル＝アマルナ）

Ｙ　河姆渡

Ｚ　ドーラーヴィラー（ドーラー＝ヴィーラー）

１．あ―Ｘ　い―Ｙ　う―Ｚ　　２．あ―Ｘ　い―Ｚ　う―Ｙ

３．あ―Ｙ　い―Ｘ　う―Ｚ　　４．あ―Ｙ　い―Ｚ　う―Ｘ

５．あ―Ｚ　い―Ｘ　う―Ｙ　　６．あ―Ｚ　い―Ｙ　う―Ｘ

設問 3　下線部(2)について，メソポタミア地方南部における都市の成立の背景となった農業の記述として正しいものを，次の選択肢１～４から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

１．雨水にたより，肥料を用いない農業がおこなわれた。

２．黄土が堆積した土地でアワが栽培された。

３．人為的に水を供給する農業で麦が栽培された。

４．トウモロコシやジャガイモが栽培された。

設問 4　下線部(3)について，世界史上の都市と商業についての記述として正しいものを，次の選択肢１～４から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

1．アテネでは，ペイシストラトスが商工業を奨励した。

2．イスラーム世界では，都市の中でマドラサと呼ばれる市場が栄えた。

3．唐末以降，中国では城内に草市と呼ばれる商業地が現れた。

4．マンチェスターは奴隷貿易が行われる港町として栄えた。

設問 5　アテネのアゴラに建てられた建築物や施設について，下線部(4)と同じ段落の文章を参考にしながら，古いものから年代順に正しく配列したものを，次の選択肢１～８から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

1．「アッタロスのストア」→「アグリッパの音楽堂」→「南東の泉場」→「会議場」

2．「アッタロスのストア」→「南東の泉場」→「アグリッパの音楽堂」→「会議場」

3．「会議場」→「アッタロスのストア」→「アグリッパの音楽堂」→「南東の泉場」

4．「会議場」→「南東の泉場」→「アグリッパの音楽堂」→「アッタロスのストア」

5．「会議場」→「南東の泉場」→「アッタロスのストア」→「アグリッパの音楽堂」

6．「南東の泉場」→「アッタロスのストア」→「アグリッパの音楽堂」→「会議場」

7．「南東の泉場」→「アッタロスのストア」→「会議場」→「アグリッパの音楽堂」

8．「南東の泉場」→「会議場」→「アッタロスのストア」→「アグリッパの音楽堂」

設問 6　下線部(5)について，世界史上の社会と娯楽の関係の記述として正しいものを，次の選択肢１～４から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

1．イスラームが広まらなかったジャワ島では，ワヤン（ワヤン＝クリ）のようにインド古典の影響を強く受けた文化が発達した。

2．支配下の文化に寛容であった元朝の下で，『西廂記』や『聊斎志異』に代表される戯曲（雑劇）が流行した。

3．18世紀のイギリスでは，貧しい労働者の集まるコーヒーハウスが社交の場となって，新しい文化や制度が生み出された。

4．民主政下のアテネでは，市民が集まる祭典で，悲劇や喜劇が競演された。

設問 7　下線部(6)について，世界史上の宮殿の記述として正しいものを，次の選択肢１～４から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

1．オイラトのエセン＝ハンが黄帽派のチベット仏教に帰依したことで，ダライ＝ラマの宗教的権威が高まり，ラサにはポタラ宮殿が建てられた。

2．堅固な城塞のある王宮が，クレタ文明の特徴である。

3．清朝では，イエズス会士によってヨーロッパの文化が持ち込まれ，西洋式宮殿が円明園に建てられた。

4．ムラービト朝の下で建てられたグラナダのアルハンブラ宮殿は，イベリア半島の代表的なイスラーム建築である。

設問 8　下線部(7)が築かれたのは，各地の軍団が擁立した皇帝が短期間に交替する時代だった。この時代のローマ帝国の記述として正しいものを，次の選択肢１～４から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

１．ゲルマン人やササン朝ペルシアの侵入を受けた。

２．「内乱の１世紀」とよばれる政治的混乱の時代であった。

３．ローマ市民権が帝国の全自由人に付与された。

４．ローマ市民権を求めて，イタリア半島の同盟市がローマに反乱を起こした。

設問 9　下線部(8)について，医学の発展に関する記述あ・いと，世界史上の伝染病と社会に関する記述Ｘ・Ｙを読み，内容が正しい記述の組合せを，次の選択肢１～４から一つ選び，番号を解答欄Ｉ－Ｂに記入しなさい。

医学の発展

あ　ジェンナーが種痘法を開発した。

い　パストゥールやコントが細菌学を発達させ，公衆衛生にも寄与した。

伝染病と社会

Ｘ　14世紀のヨーロッパでは，黒死病（ペスト）がたびたび流行したことが一因となって農業人口が減少し，領主に対する農民の地位が低下した。

Ｙ　ヨーロッパから持ちこまれた伝染病が，アメリカ大陸の先住民の人口減少の一因となり，代わりにアフリカの黒人奴隷がアメリカ大陸で使役されるようになった。

１．あ―Ｘ　　２．あ―Ｙ　　３．い―Ｘ　　４．い―Ｙ

設問10　下線部(9)の伝染病についての次の資料A・Bに関する文W～Zを読み，内容が正しい文の記号の組合せを次の選択肢1～16から一つ選び，番号を解答欄Ⅰ－Cに記入しなさい。

A

前430年の夏になるや，ペロポネソス同盟軍はアテネの領土に侵入し，国土を荒らし始めた。それからまもなく，あの疫病がアテネで初めて発生したのである。（中略）伝聞によれば，この疫病はエチオピアから始まり，北アフリカへ，さらにペルシア帝国の大部分へも広がり，それからアテネに襲来した。（中略）この病気そのものの苦しみに加えて，人々をさらに困窮させたのは，戦争に備えた田園から都市域への集団移住で，特に住むべき家もない移住者が苦しめられた。（中略）都市の内部では人々が疫病で死んでいき，都市の外では敵によって土地が荒らされた。このとき，スパルタ人に下った神託のことが話題に上がった。スパルタ人がデルフォイの神託を司る神に開戦すべきか伺ったところ，「力を尽くして戦えば勝利するし，神自ら助けるだろう」と告げられた。人々は，現状が神託と符合していると考えた。開戦後すぐに疫病が起こり，さらにスパルタには広がらず，特に蔓延したのはアテネと，他の最も人口稠密な諸地域であったからだ※。

（トゥキュディデス『歴史』2巻47－54節より要約。）

※敵国であるアテネで特に疫病を流行らせたことが，神託にある神の助けとみなされた，ということ。

B

ところが，まもなくローマ帝国は，戦勝の喜びが瞬く間に冷めるような状況に陥った。東方に遠征したローマ軍兵士たちが疫病にかかり，彼らの帰還とともに病気が帝国全土に広がったからである。（中略）

疫病はローマ市に到達したのち，ライン，ドナウ両河川沿岸属州やエジプトにも広がった。ローマ帝国は，完全にパンデミック（世界的規模での感染症の流行）状態となったのである。この疫病流行に関して，『ローマ皇帝群像』「ルキウス※伝」には次のように記されている。

「帰途に通過した諸属州に，そして最後には首都ローマにも，疫病を持って帰ったように思われたのは，彼［ウェルス］の不運であった。この疫病は，バビロニアで発生したが，そこにあったアポロン神殿で一兵士が偶然開けた金の小箱から，疫病の瘴気が出たのだといわれている。（中略）」

（南川高志『マルクス・アウレリウス――『自省録』のローマ帝国』岩波書店，2022年，100－103頁より引用。）

※マルクス＝アウレリウス＝アントニヌスとともに皇帝として共同統治に当たったルキウス＝ウェルスのこと。「ルキウス伝」の引用文中の「[ウェルス]」も同様。

W　資料Ａの伝染病の流行は，アテネの指導者ペリクレスの命を奪った。

X　資料Ｂの伝染病が広まったきっかけは，当時ローマ帝国の東方にあったササン朝との戦争であった。

Y　資料Ａ・Ｂともに，伝染病はアテネやローマ市よりも先に，エジプトに広まったと伝えている。

Z　資料Ａ・Ｂともに，伝染病の流行には同じ神が関わっているという理解を伝えている。

1．W	2．X	3．Y
4．Z	5．W・Z	6．W・Y
7．W・Z	8．X・Y	9．X・Z
10．Y・Z	11．W・X・Y	12．W・X・Z
13．W・Y・Z	14．X・Y・Z	
15．W・X・Y・Z	16．なし	

設問11　波線部(ア)～(エ)に関する次の問いに対する答えを解答欄Ｉ－Ｄに記入しなさい。

(ア)　波線部(ア)の聖塔は何と呼ばれるか。カタカナで答えなさい。

(イ)　波線部(イ)の神殿のアテナ女神像を製作した人物の名前を，カタカナで答えなさい。

(ウ)　波線部(ウ)の中でも，元老院が置かれたローマ市の広場が代表例として知られている。その広場の遺跡の名前を，カタカナで答えなさい。

(エ)　波線部(エ)に関連して，現在確認されている中国最古の統一王朝は，城壁に囲まれた都市の連合体であった。こうした都市は何と呼ばれるか。漢字で答えなさい。

〔Ⅱ〕 「近世イスラーム帝国」の歴史に関する以下の文章を読み，設問1～10に答えなさい。 (50点)

日本における歴史学研究では，(1)16世紀から18世紀にかけての時代を「近世」と呼ぶことが多い。この時代の特徴の一つに，世界の各地において，国家の統治がより緊密になっていったことがあげられる。この時代に，東地中海地域，西アジア，南アジアのムスリム（イスラーム教徒）たちを治めたオスマン帝国，サファヴィー朝，ムガル帝国は，イスラーム教を統治の理念に掲げつつ，常備軍や官僚制を整備し，様々な民族が暮らす広範な地域を支配した。ここでは，これらの国々を「近世イスラーム帝国」と呼ぶ。

このうち，オスマン帝国は，1453年に（ a ）を攻略すると，その町を都として東地中海地域のほぼ全域に支配を広げていった。16世紀前半から中葉にかけて君主の座にあった（ b ）の治世には，東方でサファヴィー朝を破って（ c ）を獲得し，北方ではオーストリアの（ d ）家の本拠地であったウィーンを包囲するなど，軍事的に最盛期を迎えた。

一方，サファヴィー朝は，(2)神秘主義教団が，トルコ系遊牧民の軍事力によってイランとその周辺地域を平定して成立した（ e ）派の国家である。サファヴィー朝の統治は，それまでのイランにおける政権と同様に，軍の中核をトルコ系の遊牧民が占め，行政や財務は(3)イラン系の官僚が担う体制であったが，16世紀後半から17世紀前半にかけての（ f ）の治世に，様々な民族からなる君主直属の常備軍や銃兵軍を拡充した。

南アジアにおいては，16世紀前半に，中央アジアの（ g ）朝の王族が北インドに入り，それまで同地を支配していた（ h ）朝を破ってデリーを占領し，ムガル帝国の礎を築いた。16世紀半ばから17世紀初頭にかけて君主の座にあった（ i ）の治世に，検地による徴税制度の改革と，中央集権的統治体制の整備が進められた。また，人口の多数派を占めるヒンドゥー教徒との融和が図られ，(4)非ムスリムに課される人頭税の徴収が停止されるとともに，（ j ）制と呼ばれる国家の支配制度に，ヒンドゥー教徒の有力者たちも取り込んだ。

イスラーム教以外の様々な宗教を信仰する人々を統治下に置いたことは，オス

マン帝国とサファヴィー朝も同様であった。例えば，オスマン帝国においては，[　A　]。「近世イスラーム帝国」は，イスラーム教に則った統治を理念とし，ムスリムの君主を戴きながら，イスラーム教以外の様々な宗教を奉じる人々を柔軟に取り込むことで，比較的安定した社会と繁栄した経済，(5)多様な文化を享受したとも言える。しかし，イスラーム教とムスリムの優位は維持され，ムガル帝国では，(　k　)の治世に，非ムスリムからの人頭税の徴収が再開された。

こうした「近世イスラーム帝国」の隆盛は，16世紀から大きく進展した「世界の一体化」と連関していたと考えられる。「世界の一体化」とは，(6)15世紀末に始まる西欧諸国の海洋進出によって，ユーラシア・南北アメリカ・アフリカを結ぶ経済関係が形成され，アジアや(7)インド洋で展開していた交易網も，そうした世界規模の経済活動の影響を大きく受けるようになったことである。(8)ここで「近世イスラーム帝国」と呼んでいる諸国家も，それぞれの支配領域に進出してきた西欧諸国と様々な関係を持ち，西欧諸国との関係が国内の政治・経済・文化に大きな影響を及ぼすようになっていった。

設問 1　空欄（　a　）～（　k　）に入る最も適切な語句を次の語群より選び，その番号を解答欄Ⅱ－Aに記入しなさい。

【語群】

1．アウラングゼーブ　2．アクバル　3．アグラ
4．アッバース１世　5．アドリアノープル（エディルネ）
6．イスマーイール　7．イラク　8．ウマイヤ
9．カイロ　10．カージャール
11．コンスタンティノープル　12．サイイド
13．サウード　14．シーア　15．シパーヒー
16．シリア　17．スコラ　18．スレイマン１世
19．スンナ　20．セリム１世　21．チュニジア
22．ティマール　23．ティムール　24．トゥグルク
25．ハプスブルク　26．バーブル　27．バヤジット１世
28．ハルジー　29．ハンガリー　30．ブルボン
31．ホーエンツォレルン　32．ホラズム＝シャー
33．マムルーク　34．マンサブダール（マンサブダーリー）
35．マンスール　36．メッカ　37．メフメト２世
38．ラージプート　39．ロディー　40．ワッハーブ

設問 2　下線部(1)に関連して，16～18世紀に存在した国家・政権として**当てはまらないもの**を，次の１～４から一つ選び，番号を解答欄Ⅱ－Aに記入しなさい。１～４の全てが当てはまる場合は，数字の５を記入しなさい。

1．清　2．李朝（大越）
3．アユタヤ朝　4．テューダー朝

設問 3　下線部(2)に関連して，イスラーム教の神秘主義の修行者のことを何というか，解答欄Ⅱ－Bにカタカナで記入しなさい。

設問 4　下線部(3)に関連して，イラン系官僚から宰相となり，歴史書を編纂した人物としても知られるラシード＝アッディーン（ラシード＝ウッディーン）について，彼が編纂した歴史書と彼が仕えた国家の組合せとして正しいものを，次の１～４から一つ選び，番号を解答欄Ⅱ－Ａに記入しなさい。

１．『歴史序説』― セルジューク朝　　２．『集史』― イル＝ハン国

３．『歴史序説』― イル＝ハン国　　４．『集史』― セルジューク朝

設問 5　下線部(4)に関連して，ムスリムの統治下において非ムスリムに課された人頭税を何というか，解答欄Ⅱ－Ｂにカタカナで記入しなさい。

設問 6　空欄［　Ａ　］に入る文として，最も適当なものを，次の１～４から一つ選び，その番号を解答欄Ⅱ－Ａに記入しなさい。

１．宮廷などに様々な宗教や言語を持つ人々が集まり，そうした多様な人々の共通語としてウルドゥー語が用いられた

２．バルカン半島出身者によって組織された，キリスト教徒の騎兵軍団であるイェニチェリが活躍した

３．様々な地域から様々な宗教を信仰する商人・職人が集まる首都が，「世界の半分」と讃えられた

４．ユダヤ教徒やキリスト教徒の共同体に自治が認められた

設問 7　下線部(5)に関連して，16世紀前半のインドで，ナーナクが，イスラーム教の影響を受けたヒンドゥー教の改革として創唱した宗教を何というか，その名称を「～教」という形式で，解答欄Ⅱ－Ｂに記入しなさい。

設問 8　下線部(6)に関連して，ポルトガルが，進出の拠点として，1510年にインド西海岸に確保した都市の名前を，解答欄Ⅱ－Ｂにカタカナで記入しなさい。

設問 9　下線部(7)のインド洋交易とその影響に関する記述として正しいものを，次の１～４から一つ選び，番号を解答欄Ⅱ－Ａに記入しなさい。

1．アラブやイランのムスリム商人は，ジャンク船を用いてインド洋を航海した。

2．スマトラ島に成立したシュリーヴィジャヤは，多くの港市国家を従え，交易によって繁栄した。

3．アフリカ東部のインド洋沿岸地域においては，アラビア語と現地の言語が混合したコイネーが共通語となった。

4．東南アジアにおいては，インド洋を渡ってきたムスリム商人との交易をとおしてイスラーム教が広まり，マジャパヒト王国の王がイスラーム教に改宗した。

設問10　下線部(8)に関連する記述Ｘ～Ｚについて，内容が正しい文の記号の組合せを，次の１～８から一つ選び，番号を解答欄Ⅱ－Ａに記入しなさい。

Ｘ　サファヴィー朝は，スペイン人をペルシア湾のホルムズ島から追放した。

Ｙ　オスマン帝国がフランスなどの商人に与えたカピチュレーション（キャピチュレーション）は，19世紀になると不平等条約のもとになった。

Ｚ　18世紀にムガル帝国の統治が弱体化するなかで，スペイン継承戦争と連動して起こったプラッシーの戦いにおいて，イギリス東インド会社がフランスとベンガルの地方政権の連合軍を破った。

1．Ｘ	2．Ｙ	3．Ｚ	4．Ｘ・Ｙ
5．Ｘ・Ｚ	6．Ｙ・Ｚ	7．Ｘ・Ｙ・Ｚ	8．なし

〔Ⅲ〕 以下の文章を読み，設問１～３に答えなさい。 (50点)

ナポレオンによるヨーロッパの支配が終結し，1814～1815年に一連の戦争の戦後処理のため，ヨーロッパ諸国の代表者が参加する［ あ ］が開かれた。このころには，国際分業体制におけるイギリスの覇権が，事実上確立した。圧倒的な生産力をもつイギリスは，製品の輸出市場や原材料の供給地を海外に求め，広大な植民地帝国(A)を確立した。1837年に［ い ］が即位してからのおよそ半世紀間，イギリスは経済的にも軍事的にも，他国を圧倒した。1851年に（ a ）で開催された第１回万国博覧会（以下，万博）は，いち早く産業革命(B)を達成した「世界の工場」の技術力を国内外に誇示することになった。30万枚ものガラスを使用した「水晶宮」が目玉の一つとなった万博は，人々の関心を大いに集めた。（ a ）に続いて，1853年に始まった［ う ］戦争の影響などで準備が遅れるも，1855年と1867年(C)には（ b ）でも万博が開催された。1873年にウィーンで開催された万博には明治政府も正式に初参加し，工芸品など日本の文化が紹介された。ここで紹介された日本文化から印象派(D)も影響を受けることになった。

万博は近代産業の発展状況を示したことはもちろん，植民地の拡大にまい進する国々が国威をアピールし，植民地の人々が「展示」される場ともなり，来場者が新しい世界認識(E)を得る空間になっていった。加えて万博は，都市生活の変化も示した。1900年の（ b ）万博電気館は「電気の世紀」の開幕を告げるものだった。電化をはじめとする便利で快適な都市の生活環境の進展は，農村から都市への人々の移動を加速させ，首都や中小都市の人口増をもたらした。

19世紀後半になると，列強諸国の首都は近代化の成果や国家の威信を示すために，近代技術や土木工学を結集して上下水道を普及させ，都市計画によって道路や都市交通網を整備し，大都市文化の誕生の環境を整えた。［ え ］の治世である第二帝政期にセーヌ県知事オスマンによって進められた（ b ）改造や，ウィーンの都市計画はその代表的事例であり，古い街区や城壁を取り壊し，近代的建築や街路を整備して，他都市のモデルとなった。また，（ a ）では最初の地下鉄が開通し，近代的都市交通が始まった。

この時期，欧米では国が主導して科学技術の開発が進んだ。（ c ）のファ

ラデーが発見した電磁誘導の法則が，（　d　）のジーメンスによる発電機とモーター，電車の製品化につながり，同じく（　d　）の［　お　］とディーゼルによるエンジン（内燃機関）の発明が，交通機関の革新をもたらした。このように，重化学工業・電機工業・石油産業を中心とする新しい産業が誕生し，これを南北戦争後のアメリカ合衆国と統一後の（　d　）が牽引することになった。これに対して，それまで産業革命をリードしていたイギリスは，この産業構造の転換に立ち遅れることになった。新産業は巨額の設備投資を必要としたので，(F)産業資本と銀行資本が結びついた金融資本の役割が増大し，市場の独占も進んだ。欧米列強は1870年代半ば以降，不況に伴う経済問題・社会問題の解消を目指し，海外への膨張政策を強引に推し進め，武力で海外市場を獲得しようとする動きが強まった。(G)科学技術の進歩で，武器・通信手段・医療が発達し，植民地の征服が容易にもなった。

19世紀末からは長期の低成長期も終わり，ヨーロッパ諸国は好景気に支えられて繁栄期を迎えた。この時代は「ベルエポック（すばらしい時代）」と呼ばれ，都市では百貨店も開店し，消費文化が花開いた。博物館・美術館・コンサートホールなどの文化施設・娯楽施設の拡充も進み，成熟した市民文化の成果を示す場ともなった。第一次世界大戦前の半世紀間，列強間の紛争や対立の場が，ヨーロッパの中心部ではなく，(H)アジア・アフリカ地域，(I)バルカン半島などのヨーロッパの周辺部に限定されていたことも，こうした繁栄の背景をなしていた。

設問1　文中の（　a　）～（　d　）に入る最も適切な語句を次の語群から選び，番号を解答欄Ⅲ－Aに記入しなさい。なお，aとbには都市名が，cとdには国名が，同じ記号には同じ語句が入る。

【語群】

1．アイルランド	2．アンカラ	3．イギリス
4．イタリア	5．オーストラリア	6．シカゴ
7．ドイツ	8．トルコ	9．ニューヨーク
10．パリ	11．フランクフルト	12．フランス
13．ブリュッセル	14．ミラノ	15．メルボルン
16．ロンドン		

設問 2　文中の［　あ　］～［　お　］に入る適切な語句を，解答欄Ⅲ－Ｂに記入しなさい。

設問 3　下線部(A)～(I)に関連する次の記述(a)(b)について，(a)(b)ともに正しい場合は数字 **1**，(a)のみ正しい場合は数字 **2**，(b)のみ正しい場合は数字 **3**，(a)(b)ともに正しくない場合は数字 **4** を，解答欄Ⅲ－Ｃに記入しなさい。

(A)　イギリス植民地帝国について。

(a)　アヘン戦争後に，清は天津条約でイギリスに香港島を割譲した。

(b)　イギリスは，コンバウン朝との戦争で，ビルマ全土をインド帝国に併合した。

(B)　産業革命について。

(a)　ジョン＝ケイが，飛び杼を発明した。

(b)　スティーヴンソンが，蒸気機関車を製作した。

(C)　1867年について。

(a)　この年に，プロイセンを盟主とする北ドイツ連邦が成立した。

(b)　この年に，オーストリア＝ハンガリー帝国が成立した。

(D)　印象派について。

(a)　印象派の画家たちは，光や色彩の表現を重視した。

(b)　印象派の絵画「ムーラン＝ド＝ラ＝ギャレット」は，ミレーの作品である。

(E)　新しい世界認識について。

(a)　ダーウィンが『種の起源』で唱えた自然淘汰と適者生存の理論は，聖書の人間観を揺るがした。

(b)　スペンサーが唱えた社会進化論（社会ダーウィン主義）は，劣等と見なされた民族・人種への迫害を正当化する論理につながった。

(F)　産業資本・金融資本による市場の独占について。

(a)　大銀行を中心とする巨大な企業集団をカルテルと呼ぶ。

(b)　アメリカ合衆国では，1890年にトラストを規制する法が制定された。

(G) 科学技術の進歩について。

(a) 無線電信は，ドイツのマルコーニによって発明された。

(b) アメリカのライト兄弟が，動力飛行機による初飛行に成功した。

(H) アジア・アフリカ地域について。

(a) 南アフリカ戦争により，ケープ植民地はトランスヴァール共和国とオレンジ自由国に併合された。

(b) イギリスはインド人傭兵の反乱を機にムガル皇帝を廃し，藩王国も全廃した。

(I) バルカン半島について。

(a) 1878年のサン＝ステファノ条約で，ルーマニア，セルビア，モンテネグロの独立が認められた。

(b) 1878年のベルリン条約により，ブルガリアは領土を拡大した。